

(2) 八ツ鹿踊り

史実に基づいた、年表を下記に提示する。

| 年号 | できごと |
|------|---|
| 1615 | ・伊達秀宗が仙台藩から宇和島藩に入り、藩主となる。 この間に現在の八ツ鹿踊りの元となる踊りが伝来したと思われるが、五頭、七頭、八頭など諸説ある。 |
| 1646 | ・秀宗に許可され八ツ鹿(数は諸説あるため不確か)が伊達家の氏神である宇和津彦神社の練り物として行われ始める。 1849年の時点ではすでに五ツ鹿であったことが宇和津彦神社祭礼絵巻から分かる。また五ツ鹿の面に「安政四丁巳六月当町森田屋磯右衛門源吉晶作」とあることから、1857年の時点では五ツ鹿であったと分かる。 |
| 1922 | ・昭和天皇の台覧に伴い、面と装束を新調、八ツ鹿に戻る |
| 現在 | ・裡町一丁目が伝承・保存 |

以上が大まかな出来事である。開始当初の八ツ鹿踊りは秀宗(つまり宇和島藩)のお墨付きの人たちだけが行うことを許可されていたので、伝承していたのは宇和島藩お抱えの芸能を担う集団だったと考えられる。

宇和津彦神社の練り物として許可されてからも、宇和島城内で八ツ鹿踊りは行われていたので、秀宗らに見せるために行った芸能団体と、祭礼行事として行うための団体が別に作られて伝承されていたと考えられる。

現在では裡町1丁目の人たちが伝承しているが、昔は1～5丁目すべてが八ツ鹿踊りを行い、伝承していた。しかし、別の練り物を始める、人手不足により伝承されなくなるなどして、1丁目のみが残った。(保存は八ツ鹿保存会、市の教育委員会、宇和津彦神社などが関わる)

以上のことから、八ツ鹿の保存・伝承は神社関係者だけでなく、多くの人によって行われていたと考えられる。

5 まとめと今後の課題

宇和島の祭りで最も有名な祭りである和霊大祭と八ツ鹿踊りが二つとも伊達家と大きく関連していたことが分かった。宇和島以外の地域でも伊達家と関連した祭りがあるとすればそれについても調査したい。

6 参考文献および参考サイト

『攘夷などと無謀なことを』

『兎 もう一つの伊達騒動』

『季刊 えひめ第6号』

『宇和島市教育委員会 八ツ鹿踊り』

<http://www.city.uwajima.ehime.jp/www/contents/1287559142976/>

7 訪問先

和霊神社 宇和津彦神社